

北の志づめ

第230号

令和7年6月



先人に学ぶ

れんが建築を先導して近代化に貢献 平井晴二郎 北室 かず子氏

円山地域の生物

野鳥観察の事始め 春はサクラ! とツバメ? 北海道大学大学院理学研究院 教授 高木 昌興氏

<http://www.hokkaidojingu.or.jp/>



北の志づめ 第230号 令和7年6月1日発行

〒064-8505 札幌市中央区宮ヶ丘474

電話／011-611-0261 FAX／011-611-0264 北海道神宮社務所

<http://www.hokkaidojingu.or.jp/>



ご挨拶

ライラックの香りが札幌の街角に漂い、若葉が陽光にきらめく初夏の候となり、いよいよ本年も北海道神宮例祭の時節を迎えました。当神宮の例祭は、皆様には「札幌まつり」と申し上げる方が馴染み深いかもしれません。

札幌まつりは、六月十四日の頓宮修祓祭にはじまり、宵宮祭、十五日の例祭、そして十六日の神輿渡御へと続きます。この札幌まつりを取り仕切るのが北海道神宮敬神講社年番であり、本年は第二本府祭典区の皆様がお引き受けくださり、現在、鋭意、諸準備を執り進めていただいております。

明治十一年に始まりました神輿渡御は、先の大戦中に二回、近年のコロナ禍により二回、やむなく中止となりましたが、お陰様で、本年、百四十四回を数えるに至りました。これは、神明のご加護は申すまでもなく、敬神講社各祭典区を始め、ご崇敬の皆様の真心籠る多大なるご尽力の賜物でございます。

昭和四十年頃までは、札幌まつりの折には、各家庭の玄関に軒花が飾られ、提灯が下げられておりました。また、

当時はどの家庭でも赤飯を炊き、煮しめを作り、季節の魚である時鮭に、二十日大根の酢の物を添えて食するのが慣わしでしたが、こうした札幌まつりの慣わしを、ご存知のない方も多くなっている昨今のです。

しかしながら、札幌まつりの神輿渡御に響く笛や太鼓のお囃子は、今日でも、札幌の初夏を告げる風物詩となっており、多様に変化する時の流れの中にあつても、多くの皆様に親しまれ、長年にわたり、札幌市はもとより北海道と共に歩んでまいりました札幌まつりを、次世代に確実に継承してゆくことが、当神宮の使命であると私は考えております。ご崇敬の皆様方には、今後とも札幌まつりに変わらぬご高配とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

本年の札幌まつり、例祭・神輿渡御が、御祭神のご加護をいただきまして、天候にも恵まれ、盛大に滞りなく斎行できますよう祈念いたしますと共に、ご崇敬の皆様方には、健やかにお過ごし下さいますようお願い申し上げます。ご挨拶いたします。



年番奉仕にあたり

令和七年の北海道神宮敬神講社年番のご奉仕にあたり、謹んで一言ご挨拶申し上げます。

私どもの本府地区は開拓使によつて札幌本府としての街づくりが始められた、市内でも早くから開かれた地域となります。札幌の開拓の基点とされる創成川(大友堀)と南一条通(銭函道)の交差点には、今でも「札幌建設の地」の碑が建てられており、その歴史を物語っています。また、本府地区は古くから商業地区として栄えてまいりました。現在でも大きなデパートやファッションビルが立ち並ぶと同時に、庶民的なたたずまいを感じさせる狸小路商店街もある、市内有数の商業エリアとなっています。

このように、札幌の中心部として栄えていく中で、札幌まつりの渡御が明治十二年に始まり、明治二十六年に祭典区が

成立し、大正十五年には敬神講社が組織されました。その年には本府が第二区として年番を務めさせていただきました。この際、現在でも神輿渡御に勇壮な行進曲を響かせる維新勤王隊を京都の平安神宮より取り入れる事となりましたが、その装束式を奉納させていただきましたことは、私共第二本府祭典区にとつて誇らしいことでございます。

このように札幌まつりとともに歩んでまいりました第二本府祭典区といたしましては、本年も年番を務めさせていただきますに深く感謝いたしますと共に、無事執り行うことができるよう一同力を合わせ臨む所存でございます。各祭典区、奉仕団体の皆様をはじめご関係各位にはご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますご挨拶とさせていただきます。



先人に学ぶ

北室 かず子

第二回

れんが建築を先導して近代化に貢献



写真提供／鉄道博物館

ひらい せいじろう
平井晴二郎安政三年（一八五六）
〜大正十五年（一九二六）

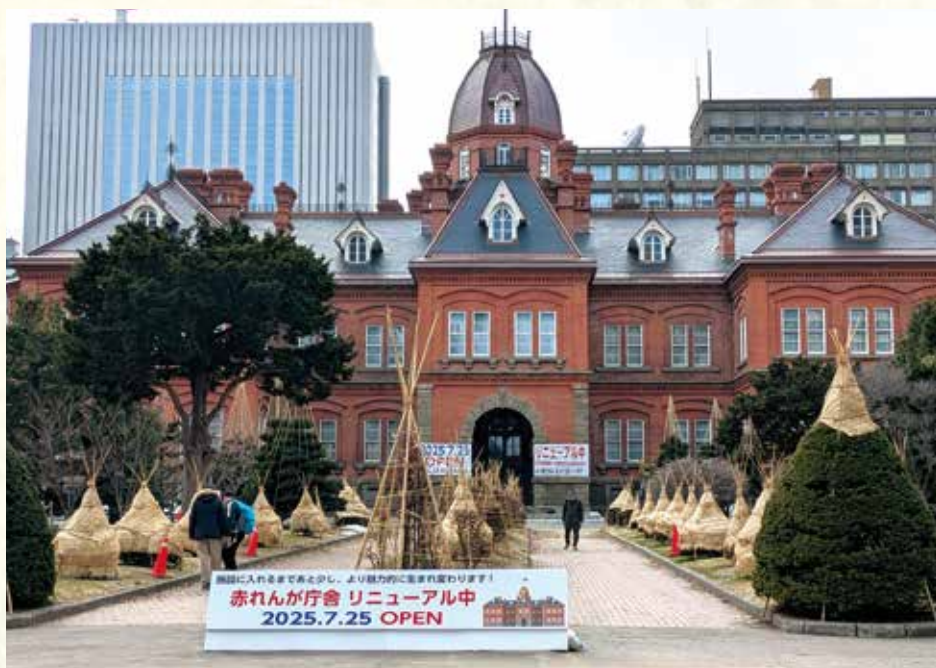
平井晴二郎は、れんがとの宿命を生きた人物です。

安政年間に金沢藩士の次男に生まれ、幼少期から秀才の誉高く、藩から選ばれて上京し、大学南校（現・東京大学）で工学を学びます。そして文部省第一回留学生として米国ニューヨーク州のレンセラー大学に留学すると、州都オールバニーではれんが造りの市庁舎を建設中でした。平井はこの時点で西洋れんが建築を目撃した数少ない日本人となったのです。

れんがは堅牢で耐火性が高いばかりか、原料となる粘土があれば無限に作り出せて、自在に組み合わせがでる資材です。効率と大規模化を追う近

代の象徴とも言えるでしょう。それでいて温もりのある落ち着いた色調で人々を包みます。

米国から帰国した平井は開拓使に



7月25日、リニューアルオープンする旧北海道庁本庁舎（赤れんが庁舎）。

奉職し、小樽・手宮と幌内（現・三笠市）を結ぶ北海道初の鉄道「官営幌内鉄道」の敷設に携わります。鉄道施設は機関車の火の粉がかかる恐れがあるため、不燃性、耐火性が不可欠。平井は手宮の機関車庫をれんが建築で設計しました。これは「機関車庫三号」として明治十八年（一八八五年）に竣工し、現存する日本最古の機関車庫として、今も小樽市総合博物館本館で見ることができま

す。

れんがは札幌郡白石村（現・札幌市白石区）の鈴木煉瓦製造場や、東京・小菅集治監で製造されたものを使用しました。



旧手宮鉄道施設 機関車庫三号。小樽市総合博物館所蔵。

二郎の特命で白石にれんが工場を創置した」という記録があります。平井が札幌のれんが製造の鍵を握っていたのです。

明治二十一年、鈴木煉瓦製造場のれんがを主に使って北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）が竣工しました。平井は、道庁の優秀な技師団を率いて設計にあたりました。資材の生産も物流システムも未発達だった北海道で、れんが製造から建物の設計まで一貫して先導した平井。れんがという西洋文明のピースを社会に埋め込んだ立役者ともいえるのではないのでしょうか。

赤れんが庁舎の完成前に東京に戻った平井は、鉄道行政の中枢を上っていきます。鉄道作業局長官、帝国鉄道庁総裁を経て、明治四十一年（一九〇八年）鉄道院総裁・後藤新平の下で副総裁に就任します。この時、中央停車場（現・東京駅）の建設工事が始まり

ました。後藤は、建築家の辰野金吾に、近代日本の威を内外に示す壮麗な建築を求めました。設計について、辰野が平井と丁寧にやりとりした書面も残されています。れんが建築を熟知する平井の思いは、東京駅にも注がれたといえるでしょう。

平井が関わった機関車庫三号、赤れんが庁舎、東京駅はすべて国の重要文化財に指定されています。今夏、赤れんが庁舎は改修を終え、北海道の歴史文化・観光情報発信拠点としてリニューアルオープンします。明治・大正・昭和・平成・令和を生き抜くこれらのれんが建築を眺めながら、近代の基礎を築いた平井晴二郎に思いをさせてみてはいかがでしょう。

プロフィール

昭和三十七年（一九六二）生まれ。札幌市在住。筑波大学比較文化学類卒業後、婦人画報社（東京）で月刊誌の編集に携わり、平成三年（一九九二）より札幌でノンフィクションライターとして活動。

白石村では明治十五年に駒崎小平がれんがの原料土を発見してれんが製造を試み、翌年、遠藤清五郎がれんが工場を設けました。明治十七年に鈴木佐兵衛が建設したのが鈴木煉瓦製造場です。

鈴木煉瓦製造場について「明治十七年九月幌内鉄道事務所技師平井晴

春はサクラ！とツバメ？

北海道大学大学院理学研究院

教授 高木 昌興

桜前線は3月下旬に北上を始めます。札幌での開花はそれから約1ヶ月遅い4月下旬、ゴールデンウィーク頃になるのが例年です。円山の桜は花弁のピンク色が濃く、濃い紅色の葉が花とほぼ同時に展葉を始めます。薄いピンク色の花だけが咲く本州の桜とはかなり印象が異なります。円山の桜の品種の多くはエゾヤマザクラ(写真1)、本州の品種ソメイヨシノとは異なります(写真2)。円山にもソメイヨシノは植栽されていますので探してみてください。

桜と共に日本列島に春を告げる鳥としてツバメが話題になります(写真3)。南の国で冬を越したツバメが3月中旬から全国各地に帰って来て、商店街のお店の軒先などに泥で巣を作って繁殖をします。札幌近郊にお住ま

いの皆さん、北海道民の方々と言い換えてもいいです。ツバメに春を感じますか？商店街での繁殖を見たことはありませんか？北海道ではごく限られた地域を除いて、ツバメは繁殖していません。道民の多くはツバメで季節を感じるということはないはずです。(偶発的に繁殖することはあり、厚田漁港周辺や余市の一部地域などに行けば春から夏の時期に観察できます)。



【写真1】エゾヤマザクラ

ツバメの名前について考えてみます。ツバメは日本語の種の名前、種名です。しかし日本を知らない外国の人に「Subame」と言っても伝わりません。英語がわかる人には、英語の種名スワロー Swallowで通じます。特に本州で見られるツバメは、特にバーンスワロー Barn Swallowと呼ばれます。英語のバーン Barn は、日本語では納屋



【写真2】ソメイヨシノ

の意味です。ツバメは人家以外では、農村の納屋に巣を作って繁殖することが多いことから名付けられたようです。実はツバメには他の名前があります。ツバメに限らず、それぞれの生物の名前には世界中どこでも通じる名前があります。話し言葉ではなく学術的な論文を書く時に使われる種名です。その種名を書けば正確に種を伝えることができます。それはラテン語で表現される学名です。学名は基本的に2つの単語からできています。ツバメの学名は、ヒルンドルスチカ *Hirundo rustica* です。前の *Hirundo* はツバメの仲間を意味します(属名)。後ろの *rustica* は数多いツバメの仲間の中から、どのツバメなのかを特定する種名です(種小名)。この学名 *Hirundo rustica* は、世

界でツバメだけを指します。

北海道には生息しないツバメを紹介しても意味はないのではなかと訝しく思われるのではないのでしょうか。実のところ円山にはツバメが2種生息しています。話が違うではないか！いえいえ、種名にツバメを含みますが、ツバメではなく、アマツバメです(写真4、5)。ややこしいですが、学名を見ればわかります。アマツバメの学名はアプス パシフィクス *Apus pacificus* です。 *Hirundo* ではありません。翼を大きく広げた形は鎌のように見えます。少し長い尾を真っ直ぐ伸ばし、晩春からの晴れの日には円山公園の上空を滑るように飛んでいるのを見ることが出来ます。白い腰と浅い燕尾は確認したい特徴です。大きく口を開けて飛んでいる虫を吸い込むように食べます。アマツバメは木などに止まって餌を食べることができないので、天気が悪く飛んでいる虫が少



【写真3】深い燕尾のツバメ
全長17cm

ないと困る鳥です。子育て中に悪天候が続くと子供たちは親から餌をもらうことができません。育ち盛りの子供たちは餌を食べずに大丈夫なのでしょうか。日本のアマツバメと筋のヨーロッパアマツバメのヒナは、悪天候で低温が続くと代謝を落として、低体温で長期間凌ぐ能力を発達させています。もし見かけることがあれば思い出してください。

もう一種もアマツバメの仲間です。ハリオアマツバメです。一応学名を書いておきます。 *Hirundapus caudacutus* です。アマツバメよりも大きく、少しずんぐりした体ですが鎌のような翼の形は同じです。アマツバメよりもさらに速いスピードで飛ぶことが知られています。ハリオの種名は尾の先端の形に由来しています。こちらは燕尾ではなく角形ですが、一枚一枚の尾羽の先端は針のように尖っています。



【写真4】白い腰と浅い燕尾のアマツバメ 全長20cm



【写真5】群れで飛ぶアマツバメ

これは羽軸と呼ばれる羽の真ん中の硬い部分が突き出たものです。近くを飛んだ場合には双眼鏡があれば観察することが出来ます。腰ではなく下側のおしりの辺りと喉が白く、丸みを帯びた白い背中では太陽光を反射して殊更美しく見えます。このハリオアマツバメ、冬にはなんとオーストラリアのメルボルンやタスマニアまで渡り、冬を越していることが最近の研究で明らかになりました。直線距離で約1万キロメートル。驚きの距離ですが飛ぶ姿を見れば、ハリオアマツバメならできる！と思うに違いありません。

この2種を見ることは少し難しいかもしれませんが、晴れの日に円山公園野球場のベンチに腰掛け、しばらく空を見上げれば、きっと見られるはずです。くれぐれもハシブトカラスにお弁当を取られないよう注意してください。

社頭風景

三月～五月

入学祭

三月二十三日(日)まぶしく輝く春の日差しの中、第四十二回入学祭が午前十一時と午後二時に斎行されました。札幌市内全区より一三六名ものお申し込みがあり、拝殿は色とりどりのランドセルを背負う新入学児童とそれを見守る保護者の皆様で埋め尽くされました。

入学祭を終えた児童

斎主の祝詞の後、巫女による神楽「豊栄の舞」の奉奏、国家「君が代」の斉唱の後、児童一人ひとりが保護者とともに玉串を捧げ健康や学業成就などの願い事を込めながら拝礼し、最後に記念の集合写真を撮影しました。

神饌田御田植祭

五月九日(金)旭岳の麓に広がる東川町の北海道神宮神饌田にて、第四十七回神饌田御田植祭が斎行されました。早朝から北海道農業協同組合中央会・東川町農業協同組合の方々により会場が設営され、午後一時より祭典が始まりました。田長を北海道農業協同組合中央会会長の樽井功氏、田長介助役を北海道農業協同組合中央会参事の髙橋信行氏、耕作長を東川町農業協同組合の組合長牧清隆氏がそれぞれ務め、祭儀が厳粛に執り行われました。

札幌からは奉仕団約二十五名が参列し、豊作の祈りを込め、早乙女の田植えに合わせて田植え歌を歌いました。祭典終了後に一行は美瑛町の白金温泉に宿泊し、翌日は富良野神社を正式参拝の後、ふらのワイナリー、後藤純男美術館の見学やフラノマルシェを訪れ帰路に就きました。

開拓神社杯 軟式少年野球大会開会式



お祝いを受ける選手

四月二十日(日)午後五時三十分、第三十八回北海道神宮末社開拓神社杯軟式野球大会の開会式が北海道神宮拝殿にて開催されました。選手、監督、保護者

の方々も参列され、大会の安全と各チームの活躍を祈願した祝詞の後に各チームのキャプテンと監督が玉串拝礼を行いました。開会式では星野尚夫大会長の挨拶の後、佐藤秀雄実行委員長、小林眞一審判長から大会運営についての説明がありました。選手を代表して北発寒エン

宮司祝詞奏上



田植をする早乙女



植樹祭

五月四日(日)午前十時より拝殿において札幌造園協会、札幌造園技能士会の皆様も参列され、植樹祭を斎行いたしました。本年は二本の梅の植樹、剪定奉仕をいただきました。植樹に際して苗木のお祓いの後、ボーイスカウト札幌第一団の協力のもと丁寧に苗木が植えられました。

植樹をするスカウト



五月人形

四月二十九日(火)より五月二十五日(日)まで祈禱者控室にて人形作家の山田祐嗣氏所蔵の五月人形、当別甲斐の会の吊るし人形が展示されました。五月人形は江戸時代から昭和まで大切に受け継がれてきたもので、時代により表情が異なり温かみがあるものでした。展示会場には多くの参拝者が訪れ、伝統文化に触れる展示会となりました。



開拓判官島義勇顕彰祭

四月十三日(日)午前十時より参集殿において開拓判官島義勇顕彰祭を斎行いたしました。佐賀県知事山口祥義氏、島判官ご子孫の皆様、札幌秋田県人会様、衆議院議員(代理)、参議院議員、北海道議会議員、北海道開発局長様をはじめ約一二〇名のご参列をいただきました。北海道での開拓判官としての功績・秋田での初代権令(知事)としての功績を讃える祝詞の後、巫女の神楽、吟詠講議長



巫女による神楽



参拝する山口知事



御神前にお供えされた品々



古川英文先生

日村殉氏による島判官作の和歌並びに漢詩の吟詠がありました。

また、島判官の出身地である佐賀、そして北海道、秋田の有志の皆様より銘酒・名産品等が多数奉納され、神前にお供えいたしました。

札幌の発展は、島判官の壮大にして先見性のある都市計画のお蔭であり、秋田での初代権令としては県政の礎を築くなど、島判官の

数々の偉業に参列者一同改めて敬意と感謝を捧げました。

祭典終了後には、佐賀県立佐賀城本丸歴史館前副館長古川英文先生に「燕雀安くんぞ鴻鵠の志を知らんや―島義勇と蝦夷」の演題でご講演いただきました。島義勇と藤田東湖や徳川斉昭といった水戸藩・水戸学とのつながりからの切り口での講演で、出席者は興味深そうに聞き入っていました。

令和七年

開拓判官島義勇顕彰祭奉納者一覧

(敬称略・順不同)

●矢野酒造株式会社 取締役会長 矢野善紀 金一封	●青衣講 金一封	●北海道議会 議員 千葉真裕 金一封
「竹の園 純米大吟醸 愛山」 「肥前蔵心 純米吟醸」 「肥前蔵心 特別純米」 「肥前蔵心 純米大吟醸 権右衛門」	●安富清一郎 金一封	●白石一二朗 金一封
●陶山神社 宮司 宮田胤臣 のり	●佐賀城本丸歴史館 古川英文 金一封	●衆議院議員 道下大樹 金一封
●佐賀市議会 議長 山口弘展 「上撰窓の梅」	●札幌村郷土記念館館長 山田治仁 金一封	●札幌村郷土記念館館長 山田治仁 金一封
●佐賀市議会 議員 黒田利人 「上撰窓の梅」	●第一本府祭典区 代表委員長 亀畑俊宏 金一封	●第一本府祭典区 代表委員長 亀畑俊宏 金一封
●佐賀市議会 議員 福井章司 「上撰窓の梅」	●第三山鼻祭典区 代表委員長 荒邦弘 金一封	●株式会社大室洗染所 代表取締役 大室昭洋 金一封
●有限会社小笠原商店 「もち米蜜」	●株式会社エアードライブ 代表取締役 田中宏明 金一封	●有限会社エアードライブ 代表取締役 田中宏明 金一封
●佐賀市市長 坂井英隆 「特別純米 佐嘉」	●関正治 金一封	●関正治 金一封
●佐賀県神社庁 庁長 永代龍三郎 お菓子	●五稜星の会 金一封	●五稜星の会 金一封
●サッポロビール株式会社 北海道本社 代表 森本光俊 「開拓使麦酒」	●合田一 道 金一封	●自由民主党北海道参議院選挙区第一支部 支部長 船橋利実 金一封
●青木伸剛 昆布	●自由民主党北海道参議院選挙区第一支部 支部長 船橋利実 金一封	●北海道河川財団 岡部和憲 金一封
●岩田地崎建設株式会社 代表取締役社長 岩田圭剛 金一封	●自由民主党北海道参議院選挙区第一支部 支部長 船橋利実 金一封	●北海道河川財団 岡部和憲 金一封
「特別純米酒 札幌純」	●白馬堂印刷株式会社 金一封	●白馬堂印刷株式会社 金一封
●氏家和彦・珠実 日本酒	●藤部敏博 金一封	●藤部敏博 金一封
●札幌秋田県人会 会長 塚本忠 「銀紋 飛良泉」	●金一 封 金一封	●金一 封 金一封
●合同会社豆屋とかち岡女堂本家 「北の判官豆」	●北室かず子 金一封	●北室かず子 金一封
●株式会社六花亭 代表取締役社長 小田文英 お菓子	●大竹實 金一封	●大竹實 金一封
●新生会 金一封	●廣瀬裕子 金一封	●廣瀬裕子 金一封
●北海道神宮さざれ石会 金一封	●開拓神社祭典委員会 阿部俊則 金一封	●開拓神社祭典委員会 阿部俊則 金一封
●内田守孝 金一封	●松尾建設株式会社 社長 松尾哲吾 金一封	●松尾建設株式会社 社長 松尾哲吾 金一封
●北海道議会 議員 測上綾子 金一封		

奉賛会だより

奉賛会大祭

五月十二日(日)岩田会長をはじめ約二五〇名の会員が参列して奉賛会大祭が肅行されました。
祭典終了後は参集殿で総会が開催され令和六年度事業報告並びに収支決算令和七年度事業計画案並びに収支予算案が満場一致で採択されました。



総会

◆新入会員・協賛者のご紹介

当会へのご入会・ご協賛を頂きまして、まことに有り難うございます。令和七年三月一日から令和七年四月末日までのご入会の方、また会費以外にご協賛頂きました方のご芳名をご報告いたします。お名前漏れ等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

(敬称略・順不同)

◆新入会員のご紹介

多羽田 美咲緒
船越 弥一郎
大西 満
山本 恵
山本 宏
山内 尚
寶田 謙一
中村 信哉
牧野 千鶴
谷 信樹
関堂 勝幸

◆協賛者のご紹介

◇五千元
㈱米山商店
山口 日出志
㈱ペルライフ
村井 和雄
桑原 敦子
㈱キッズプロモーション
◇三千元他
中西 昭弘
三浦 良夫
堀米 裕二
福田 幸弘

【令和六年度事業報告】

令和六年四月一日から
令和七年三月三十一日まで

一、会議

- ・理事会(書面)令和六年四月・総会 令和六年五月十一日(土)・常任幹事会 令和七年三月二十八日(金)
- 二、北海道神宮奉賛会大祭の実施
令和六年五月十一日(土)、総会に先立ち、約一九七名の参列者のもと肅行されました。

三、会員の動態

- (令和七年三月三十一日現在)
・在籍会員数二、一三五名
(前年度二、二五六名)
・新入会員数六十六名
(前年度八十三名)

四、屋根銅板奉納事業

- (令和七年三月三十一日現在)
・屋根銅板(四〇三枚前年度三八枚)
五、施設整備事業
・明治天皇御増祀六十年記念事業に奉賛しました。

北海道神宮の記念事業として養心館と研修会館の修繕工事が行われました。養心館は剣道場、研修会館はボリースカウトカールスカウトの活動の場としていずれも青少年育成の中心的な施設となっております。老朽化により屋根の葺き替えを中心とする修繕工事を行い総工事費約四、五〇〇万円のうち奉賛会より、一〇〇万円のご奉賛をさせて頂きました。

- 六、教化事業
・札幌まつり振興会に協賛しました。
・札幌まつりに渡御奉仕を募集し、五〇名程の参加者の奉仕に協力しました。
・ボリースカウトカールスカウト育成に協賛しました。

・参拝者や祈禱を受けられた崇敬者を対象に、入会のご案内を申し上げたいと思います。

四、屋根銅板奉納事業

本年も引続き、屋根銅板奉納の事業を推進します。

五、教化事業

・北海道神宮並びに関係団体とともに青少年育成の教化事業の推進を図ります。

・境内の清掃奉仕を実施します。

・札幌まつり渡御奉仕員の募集を実施します。

・北海道開拓の歴史の闡明と先人諸霊の敬仰・顕彰の事業を実施します。

六、会員関係事業

- ・入会時に、会員証を発行し、会員バッジ・門標を送呈します。
- ・新年の神札・本暦・絵馬・神道教化資料などを送呈します。
- ・一年に四回奉賛会だよりを登載した社報「北の志づめ」を送付します。
- ・会員優遇の「家内安全」の祈禱の昇殿参拝を勧奨します。

渡御奉仕員募集

(六月六日締切り)

奉賛会会員を対象に例祭渡御奉仕の募集を行っております。詳細は事務局までお問合わせ下さい。
(ホームページ参照)



(事務局)〇一一・六一一・〇二六一
(九時〜十七時)

・第三十七回「境内清掃奉仕」は十月二十七日(日)に行われ、三十四名の参加を頂きました。

七、会員関係事業

- ・入会時に会員証と会員バッジ及び門標を送呈しました。
- ・会員に家内安全の祈禱による昇殿参拝を勧奨しました。(年間約四〇〇件)
- ・新年の祈禱神札・本暦・絵馬・神道教化資料などを送付しました。
- ・一年に四回「奉賛会だより」を登載した社報「北の志づめ」を送付しました。

八、役員異動一覧

【退任】

- 副会長(令和七年三月)
北海道木材産業協同組合連合会
代表理事会長 松原 正和
- 副会長(令和六年九月)
北海道神宮

- 専務理事(令和三年六月)
北海道神宮
- 権宮司 間島 誉史秀

- 理事(令和六年十月)
北海道商工会連合会
会長 宮崎 高志
- 理事(令和六年九月)
北海道神宮

- 責任役員 三上 恒
- 理事(令和七年三月)
北海道神社庁

- 庁長 菅原 高穂
- 理事(令和七年三月)
北海道神社庁

- 副庁長 永井 承邦
- 理事(令和七年三月)
北海道神社庁

- 理事 進藤 卓嗣
- 理事(令和七年三月)
北海道神社庁

- 監事 星野 昭雄
- 理事(令和七年三月)
北海道神社庁

- 監事 鎌田 正文

- 理事(令和五年十二月)
北海道神社庁総代会
会長 伊藤 義郎
- 理事(令和六年三月)
北海道神社庁総代会
副会長 小笠原 孝

- 監事(令和六年九月)
北海道神宮

- 責任役員 亀畑 倭宏
- 常任幹事(令和七年三月)
北海道経済連合会

- 専務理事 水野 治
- 常任幹事(令和七年三月)
北海道商店街振興組合連合会

- 専務理事 田口 滋
- 常任幹事(令和七年四月)
北海道神宮

- 副会長(令和七年三月)
北海道木材産業協同組合連合会
代表理事会長 三津橋 央

- 副会長(令和六年九月)
北海道神宮

- 責任役員 三上 恒
- 専務理事(令和七年五月)
北海道神宮

- 権宮司 今井 建
- 理事(令和六年十月)
北海道商工会連合会

- 会長 吉住 淳男
- 理事(令和六年九月)
北海道神宮

- 責任役員 佐藤 源五郎
- 理事(令和七年四月)
北海道神社庁

- 庁長 間島 誉史秀
- 理事(令和七年四月)
北海道神社庁

- 理事 松永 美継
- 理事(令和七年四月)
北海道神社庁

- 理事 荒木 力弥

【令和七年度事業計画】

令和七年四月一日から
令和八年三月三十一日まで

一、会議の開催

総会・理事会・常任幹事会を開催します。

二、北海道神宮奉賛会大祭の実施

北海道神宮奉賛会大祭を肅行します。

三、会員の増強

・本年も引続き会員及び関係機関の協力を得まして会員増強を図りたいと思います。